

平成17年度病害虫発生予察 予報第11号

長崎県病害虫防除所長

【気象（平成18年2月10日発表 1か月予報 福岡管区气象台）】

< 予想される向こう1か月の天候 >

九州北部地方では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は高いでしょう。降水量は平年並か多いでしょう。日照時間は平年並か少ないでしょう。

週別の気温は、1週目は平年並か高く、2週目、3～4週目は高いでしょう。

要素別確率		単位（％）	
要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	10	30	60
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

\* 予報対象地域：九州北部地域

【予報の概要】

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
トマト	黄化葉巻病 灰色かび病 葉かび病 コナジラミ類	並（前年比） 並 少 並	並（前年比） 並 少 並
きゅうり	べと病 うどんこ病 褐斑病 灰色かび病 ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	少 やや多 やや少 やや少 やや少 多	少 やや多 やや少 やや少 やや少 多
たまねぎ	白色疫病 ネギアザミウマ	並 やや少	並 やや少
いちご	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類 （注意報第7号を継続）	並 やや少 並 やや多	並 やや少 並 やや多

【トマト】 ( )内は平年値 [以下同じ]

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 並（前年比）

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.4%(前年3.2%)、発生圃場率は16.7%(前年25.0%)であった。

## 2. 灰色かび病

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

ア 2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病は認められなかった(発病株率0.1%、発生圃場率10.5%)。

イ 農業改良普及センターの情報によると一部圃場でやや多い発生が見られた。

## 3. 葉かび病

### (1) 予報内容

発生程度 少

### (2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病は認められなかった(発病株率2.4%、発生圃場率12.1%)。

## 4. コナジラミ類(外コナジラミ、シルバーリーコナジラミ、オシッコナジラミ)

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は0.3%(0.7%)、発生圃場率は8.3%(10.2%)であった。

## 【きゅうり】

## 1. ベと病

### (1) 予報内容

発生程度 少

### (2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.9%(4.9%)、発生圃場率25.0%(42.6%)であった。

## 2. うどんこ病

### (1) 予報内容

発生程度 やや多

### (2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は6.2%(3.9%)、発生圃場率は66.7%(42.3%)であった。

### (3) 防除上注意すべき事項

薬剤耐性対策のため、同一系統の薬剤は連用しない。

## 3. 褐斑病

### (1) 予報内容

発生程度 やや少

### (2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.3%(0.9%)、発生圃場率は8.3%(15.6%)であった。

## 4. 灰色かび病

### (1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病は認められなかった(発病果率0.4%、発生圃場率22.1%)。

5. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率0.3%(1.0%)、発生圃場率16.7%(19.6%)であった。

6. コナジラミ類(シバ-リ-コナジラミ、オシッコナジラミ)

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は2.3%(1.1%)、発生圃場率は33.3%(14.3%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生が多くなるとすす病の原因となるので、発生初期に防除する。

イ 薬剤抵抗性対策のため、同一系統の薬剤は連用しない。

【たまねぎ】

1. 白色疫病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 2月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発病は認められなかった(発病株率0.0%、発生圃場率2.2%)。

イ 農業改良普及センターの情報によると一部地域でやや多い発生圃場が見られた。

2. ネギアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は9.3%(16.6%)、発生圃場率は46.7%(58.7%)であった。

【いちご】

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 2月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病株率は0.4%(0.8%)、果実での発病は認められなかった(0.1%)。発生圃場率は11.1%(12.3%)であった。

イ 病害虫防除員の調査では果実での多発生が一部圃場で見られた。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

( 2 ) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病は認められなかった(発病果率0.1%、発生圃場率18.7%)。

3. アブラムシ類

( 1 ) 予報内容

発生程度 並

( 2 ) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は1.3%(1.9%)、発生圃場率は11.1%(11.6%)であった。

4. ハダニ類(ナミハダニ、カザリハダニ)

平成18年1月17日付け、病虫害発生予察 注意報第7号を継続(別紙を参照)